(別紙2)

水稻病虫害発生予察調査報告野帳(標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: たつの市揖西町竹原

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

Table with 7 columns: 病害, A, B, C, D, E, (記入方法). Rows include 葉いもち病(25株), 穂いもち病(5株), 紋枯病(25株), 縞葉枯病(25株), その他, and 特記事項.

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

Table with 5 columns: すくいとり10回振, 成虫, 幼虫, 種類名, 合計. Rows include 害虫種類 (ヒメビウンカ, セジロウンカ, トビイロウンカ, ツマゲロヨコバイ, 斑点米カメムシ類) and 見取り(25株) with sub-columns for 虫数/つと数, 被害株数, and 発生株率.

虫数/つと数

被害株数

発生株率

(別紙2)

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: たつの市神岡町大住寺

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある
C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち病(25株)					25	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					25	
縞葉枯病(25株)					25	
その他()					25	
特記事項	上記以外で被害のある病害について発生程度等を記載					

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	成虫	幼虫		合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0.0
イネミスゾウムシ(虫数)				
イネツトムシ(つと数)				
コブノメイガ(つと数)				
その他()				
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

(別紙2)

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: たつの市新宮町下野田

作型: ヒノヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある
C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち病(25株)					25	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					25	
縞葉枯病(25株)					25	
その他()					25	
特記事項	上記以外で被害のある病害について発生程度等を記載					

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類	0	0		0
払い落とし10株	成虫	幼虫		合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0.0
イネミスゾウムシ(虫数)				
イネツトムシ(つと数)				
コブノメイガ(つと数)				
その他()				
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載 一部赤枯れがみられる			

(別紙2)

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: たつの市揖保川町馬場

作型: きぬむすめ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある
C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち病(25株)					25	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					25	
縞葉枯病(25株)					25	
その他()					25	
特記事項	上記以外で被害のある病害について発生程度等を記載					

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類	4			4
払い落とし10株	成虫	幼虫		合計
ヒメビウンカ		2		2
セジロウンカ	1			1
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0.0
イネミスゾウムシ(虫数)				
イネツトムシ(つと数)				
コブノメイガ(つと数)				
その他()				
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

(別紙2)

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: たつの市御津町中島

作型: ヒノヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある
C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち病(25株)					25	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					25	
縞葉枯病(25株)					25	
その他()					25	
特記事項	上記以外で被害のある病害について発生程度等を記載					

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類	46			46
払い落とし10株	成虫	幼虫		合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ	1	1		2
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0.0
イネミスゾウムシ(虫数)	2			
イネツトムシ(つと数)				
コブノメイガ(つと数)				
その他()				
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

(別紙2)

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: 揖保郡太子町原

作型: ヒノヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある
C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

病害	A	B	C	D	E	(記入方法)
葉いもち病(25株)					25	右記の調査基準に基づき該当する株数を記入
穂いもち病(5株) ※5株の中の穂数を記入						
紋枯病(25株)					25	
縞葉枯病(25株)					25	
その他()					25	
特記事項	上記以外で被害のある病害について発生程度等を記載					

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
すくいとり10回振	成虫	幼虫	種類名	合計
斑点米カメムシ類				0
払い落とし10株	成虫	幼虫	種類名	合計
ヒメビウンカ				0
セジロウンカ				0
トビイロウンカ				0
ツマグロヨコバイ				0
見取り(25株)	虫数/つと数	被害株数		発生株率
ニカメイガ(被害株数)				0.0
イネミスゾウムシ(虫数)				
イネツトムシ(つと数)				
コブノメイガ(つと数)				
その他()				
特記事項	上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載			

(別紙2)

水稻病害虫発生予察調査報告野帳 (標準様式)

調査年月日: 令和7年7月8日

調査場所: 圏域内6圃場

作型: きぬむすめ・ヒノヒカリ ← ※早期・普通期又は品種名を記載

調査基準(病害)

葉いもち病 A: 下葉は枯死し完全なスリコミ症状

B: かなり病斑がみられ軽いスリコミ症状を呈する

C: かなり見られる

D: 病斑がわずかに見られる

E: 病斑なし

穂いもち

A: 穂首部が罹病し白穂になったもの又はこのためかなり不稔を起している

B: 穂首部以外で一次枝梗以上が侵され枯死

紋枯病

A: 半数以上の茎が発病しほとんどが止葉から穂首まで侵され止葉が枯死の状態

B: 株の半数以上の茎が発病、病斑が止葉葉鞘まで達しているが止葉は生色ある

C: 株の半数以上の茎が発病し大部分の病斑が第二葉鞘まで達している

D: 病斑が第3葉鞘まで達している

E: 全く発病を認めない又は第4葉鞘以下の発病

縞葉枯病

A: 株のほとんどの茎が発病している

B: 株の2/3以上の茎が発病している

C: 株の1/3~2/3の茎が発病している

D: 株の1/3以下の茎が発病している

E: 発病が認められない

Table with 7 columns: 病害, A, B, C, D, E, (記入方法). Rows include 葉いもち病(25株), 穂いもち病(5株), 紋枯病(25株), 縞葉枯病(25株), その他, and 特記事項.

D欄には5株の合計穂数を記入

虫害

Table with 5 columns: すくいとり10回振, 成虫, 幼虫, 種類名, 合計. Rows include 斑点米カメムシ類, 払い落とし10株, and 見取り(25株).

上記以外で被害のある虫害について発生程度等を記載 斑点米カメムシ成虫50頭のうち、イネカメムシ成虫2頭が含まれる